

令和3年度(2021年度)学校評価報告書

令和4年(2022年)3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道登別明日中等教育学校長 志 知 芳 彦 印

次のとおり令和3年度(2021年度)学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実
- (2) 生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実
- (3) 地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実
- (4) 国際理解教育、外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成
- (5) 6年間を見通した計画的な進路指導の充実
- (6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善の方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○国際理解教育や探究活動などを通し、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成を図ることができた。 ○文科省指定事業への取組や校内研修等を通じて、地域と協働した学習活動の教育実践事例を構築することができた。	○特色ある教育活動を積極的に展開していることが、地域や保護者からも高い評価を得ていることにつながっている。 ○コロナ禍においても、個別最適で協働的な学習活動の改善に向けた取組を具体化するなど、先進的な教育活動の推進を継続していくことを期待している。
改善方策	○教員間の日常的な授業互見を促進し、ICTを活用したコロナ禍にも対応できる個別最適で協働的な学習活動の改善に向けた取組を図る。 ○ICTを活用し、コロナ禍でも可能な国際理解教育と異年齢活動を模索していく。 ○探究活動を縦軸として、各教科等の単元を横軸に、重なる部分について補完できるようカリキュラムマネジメントを推進し、「地域との協働学習」事業の発展的継承に取り組む。	
生徒指導 保健・安全	○道徳教育等を重視し、発達段階等に応じた生徒集団の育成に組織的に取り組むことができた。 ○教育相談体制の整備に努め、計画的かつ組織的な支援体制の構築を推進することができた。	○生徒の規範的行動等について、他者から賞賛されたり評価されたりした出来事を積極的に公表していくなど、地域にとってもwell beingとなるよう取り組んでほしい。 ○コロナ禍における人間関係のトラブルや学校不適応を防止するために、組織的な教育相談体制の整備に努めて欲しい。
改善方策	○生徒会常任委員会やクラスリーダー会議等を活用し、生徒自らで「望ましい明日像」を議論させる。 ○今後も「いじめ」やSNSの問題について、生徒会執行部、HR委員会等による自主的な取組を促し、防止策について議論をしていく。 ○早期のサポートが必要な生徒への特例検討会議の運営やコーディネーターによる家庭訪問等の機動的対応に取り組んでいく。	
進路指導	○外部人材活用やオンライン交流なども含めた進路探究活動に取り組むなど、発達段階に応じたキャリア教育の充実に努めることができた。 ○組織的な進学指導体制づくりに向け、校内体制を強化できた。	○保護者アンケートの結果から、生徒の希望に応じた個別・最適な進路指導の取組に対して高い評価を得ていることがうかがえる。 ○社会で活躍している卒業生の活動等をHPで紹介することで、志望者増加の機会につなげて欲しい。
改善方策	○地域協働の探究活動でのキャリア教育関連分野と学年・進路主導のキャリア教育分野の一体的マネジメントにより、将来を見据えた計画的なキャリア教育の構築に取り組む。 ○大学進学希望者を含む全ての生徒の進路希望に対応できる指導体制の構築と、諸調査の分析による指導の充実に図る。 ○進路情報の提供の可視化と効率化を図っていく。	
対外・総務	○学校評価を軸としたPDCAサイクルによる教育活動の改善を推進することができた。 ○コロナ禍におけるPTAとの連携事業や校内行事の在り方について、検討を進めることができた。	○コロナ禍においても、様々な学習活動や行事を展開することができるよう、ICTを活用した学校運営に、より一層取り組んで欲しい。 ○コロナ禍において学校の様子を知る機会が減るなかで、より一層の情報発信に取り組んで欲しい。
改善方策	○次年度はHPのトップ画面のメニューの整理を行い、さらに見やすい・使いやすいHP作りを心がけていく。 ○次年度もPDCAサイクルを重視し、積極的に学校の改善をサポートしていく。 ○デジタル化を積極的に図り、情報発信等の効率を図っていく。	
寄宿舎	○コロナ禍においても、寄宿舎内における異年齢交流の機会を設定し、良好な人間関係の構築に努めることができた。 ○スクールカウンセラー等の外部人材と連携し、自己肯定感を持たせる取り組みを行うことができた。	○コロナ禍における人間関係の希薄化や閉塞感の高まりのなかで、ストレスを分散させる機会を積極的に設け、人間関係の構築に努めて欲しい。
改善方策	○現在行われているリーダー会議を活用し生徒の自主性を育むとともに、生徒の意思を尊重したサポート体制を構築する。 ○コロナ禍においても異年齢交流等、寄宿舎独自の活動を可能な限り実施することに努め、寄宿舎生徒同士のコミュニケーションや仲間意識の醸成を支援する。	
学校運営	○道内唯一の道立中等学校として、先進的な教育活動の取り組みに挑戦することができた。 ○夜間・休日における留守番メッセージの導入や、部活動活動時間の見直し、定時退勤奨励日設定、業務縮減など、持続可能な職場環境づくりに取り組むことができた。	○先生方の健康と活力が、生徒の健全な育成には欠かせない。業務の効率化を進めながら、明日でしかできないような特色ある教育活動を推進していただきたい。
改善方策	○地域連携の探究的学び、国際理解教育、異年齢教育、先取り学習、6年間一体の進路指導などの一層の充実に努める。 ○管理職のリーダーシップのもと、コアチームを立ち上げ、部活休業日設定、定時退勤奨励日の設定、業務縮減等など、学校の働き方改革の推進に努める。	
公表方法	・学校HPへの掲載 ・一斉メール配信等での周知 ・PTA会議での資料説明	

3 添付資料

- (1) 自己評価書 (2) 学校関係者評価書 (3) 保護者アンケート結果